

提出日 2020年 8月 27日

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際連携機構
-----------------------	---------------	---------------	--------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑪ (SGU2-4-4) (SGU2-4-4) 海外での関学フェロー制度の活用	2014年度	2023年度	必要なし	不要
内容				
<p>【目的】 「関学フェロー」は、本学の国際戦略上重要と考える国、地域で、高等教育関係者や本学関係者に本学の留学生の受入、学生の海外派遣またはその他の教育プログラム運営の調整業務を委嘱する制度である。なお、この計画はスーパーグローバル大学創成支援(SGU)に対応する。</p> <p>【内容】 重要であるが諸事情で事務所設置が困難な国、地域、例えばニューヨーク、欧州、オーストラリア等には、当面事務所を設置せず、高等教育関係者や本学関係者に現地業務の一部をアドホックに依頼する「関学フェロー制度」(仮称)を導入する。依頼する業務は、当面 SGU の目標達成のため留学プログラム開発に関する事項を想定。なお、拠点事務所を設置している国、地域においても地域的な事情等によっては、このフェローを委嘱することができる。</p> <p>■ 新中期計画(後期)からの移管 海外拠点の設置に記載された項目 事務所を置かず、必要に応じて現地在住の同窓生等に関学フェローといったタイトルを与え、調整業務、および本学の宣伝・広報活動をアドホックに委託する。ニューヨーク、欧州、オーストラリアへの設置を想定。欧州拠点の候補は国連ボランティア計画の本部があるボン近郊、EUの本部があるブリュッセル等。オーストラリアについては同窓会支部のあるシドニー。なお、海外拠点については、SGU2-4-5 海外拠点の拡大に記載。</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	関学フェローの配置数	関学フェローは、本学関係者または高等教育関係者に本学の留学生の受入・学生の海外派遣またはその他の教育プログラム運営の調整業務を委嘱する制度である。指標は実際に配置された数。

目標1<指標1>関学フェローの配置数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	4	4	—	—	—	—
実績	0	0	0	0	0	0
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—		
実績	0					

2. 実施計画:ロードマップ

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
関学フェロー制度 の導入	策定段階	設置の詳細に関する 検討、調整、設置、運用	運用	運用	運用の改善策の検証	運用
	2021 年 3 月 末段階	設置の詳細に関する 検討、調整	制度設置	検討(運用なし)	同左	同左
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階	必要性の検証	同左			
	2021 年 3 月 末段階	検討(運用なし)	同左	検討		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2021 年 3 月 末段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	<p>■ 関学フェロー制度の導入</p> <p>「関学フェロー」は、本学が国際戦略上重要と考える国、地域で、高等教育関係者や本学関係者に本学の留学生の受入、学生の海外派遣またはその他の教育プログラム運営の調整業務を委嘱する制度。制度の導入を完了し、配置に向けて人選プロセスを進めているところである。</p> <p>なお、2016 年1月に大学評議会において報告された国連の現役職員のフェローの委嘱については先方の事情(国連職員の兼職規程との関係)により最終的に委嘱には至らなかった。</p>
2017 年度	本学の留学生の受入、学生の海外派遣またはその他の教育プログラム運営の調整業務をフェローに任用する必要性がなかったため、委嘱に至らなかった。
2018 年度	同上
2019 年度	同上
2020 年度	同上

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	本学の留学生の受入、学生の海外派遣またはその他の教育プログラム運営の調整業務上でフェローの任用が必要性的について検証して、必要な場合は、採用する。
2019 年度	同上
2020 年度	同上
2021 年度	同上
2022 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	関学フェロー謝金については、当初予算で計上済。
2015 年度	後期中期計画からの移管については、申請どおり計画を承認します。
2016 年度	後期中期計画からの移管は、現時点で任用候補者がいないため計上しません。2017 年度に必要なが発生した場合は、予算外申請で対応してください。
2017 年度	同上
2018 年度	後期中期計画からの移管については、現時点では候補者がいないため計上しません。

2019 年度	—
2020 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・SGU 構想策定時において、必要と考えられていたが、現在不要となっている。	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 廃止	・ <u>2023 年度をもって終了する。</u>

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	